

第6回勉強会（河川事業を学ぶ）

(1) 開催概要

実施日時 平成23年12月12日（月）18:00～20:00

開催場所 豊田市職員会館2階1会議室

参加者 43名（事務局含む）

内容 矢作川水系河川整備計画について
 矢作川流域内の県河川整備計画の説明

(2) 開催結果

【勉強会の様子】



開会



市民会議座長挨拶



会場の様子



河川整備計画（国）の説明



河川整備計画（県）の説明



会場の様子

【議事概要】

・ご意見、提案 回答

1. 整備計画の概要説明（報告・豊橋河川 新高副所長）

●豊橋河川 新高副所長より矢作川水系の河川整備計画について概要を紹介して頂きました。

・矢作川水系では、平成18年4月に河川整備基本方針、その後、流域委員会を設けて様々な方の意見を頂き平成21年7月に矢作川水系河川整備計画を定めた。河川整備計画は、今後、20～30年に豊橋河川が実施する治水面（ハード、ソフト）や利水面、環境面で

はヨシ原再生や総合的な土砂管理など整備に関することを記載したものである。

・矢作川にある砂州やヨシ原の再生など、環境整備の方針についてお聞きしたい。(高橋)
砂州、ヨシ原については復活させることを考えているが、学識の先生方など、外部委員の方々にも入っていただき検討している状況である。あわせて、河川工事の際にも環境に配慮した工事を行っている。(新高)

・基本高水流量の設定に関する雨量確率の考え方で、区間が昭和47年になっているのはなぜか教えて頂きたい。また、昭和47年のデータを使うことで、例えば、近年の大型水害の例としての東海豪雨などは、このデータでカバーできるのか、教えてほしい。(内田)
工事实施基本計画のデータにて計算を行っている。当該データの妥当性も含めて検討しており、明治24年から昭和47年の期間における雨量確率で流量を設定することで妥当であると判断した。東海豪雨の流量もデータ内でカバーできている。(新高)

・治水の面では、最大の関心事である「鵜の首搾取部」の工事イメージについては、23ページに記載のあるようなイメージで行うことか教えて頂きたい。また、断面の大きさについてどのように定めるのか教えて頂きたい。この箇所は、天然の狭窄部なのでいい方法を考えていただきたい。(本守)
「鵜の首搾取部」の整備はそのようなイメージでいる。断面の設定については、多くの検討を経て決めるが、基本的には、上流の水を流すことができるように設計して決めている。(新高)

(5) 整備計画の概要説明(報告・愛知県 加藤主査)

- 愛知県 加藤主査より河川整備計画の概要について紹介して頂きました。
- ・愛知県では、河川整備基本方針を15水系で策定、河川整備計画を5圏域・15水系で策定済みである。
- ・本日はこのうち、矢作川下流圏域、矢作川中流圏域、乙川圏域の河川整備計画について紹介する。
- ・国と県の管理区間が異なることから、流量の管理が大変と思うが、生物や工事方法など苦労している点があれば教えて頂きたい。(高橋)
- 矢作川の直轄区間と県管理区間の合流点として、矢作古川や広田川などでは、直轄区間の受け持つ目標流量が下がったため、生き物や工事方法などを考慮して県の工事を行うことが期待できる。(県)

・矢作川流域内の愛知県が管理する河川は自分自身が大切に思っている川が多い。生き物などに配慮した具体的な例は何か示せる事例があるのか教えて頂きたい。(阿部)

基本的に支川の長さが短いため、大規模な工事ではなく、例えば浚渫を行うにしても半分ずつ行い植生を残しながら工事を進めることや、自然に優しい材料を用いるなど工夫している。(県)

・河川整備に当たりどのような団体と話をしているか教えて頂きたい。(菅原)

・先ほどの質問に関連し、住民との関わりは何かあるか、あるいは、地域への相談や意見募集の仕組みなどあれば教えて頂きたい。(鷺見)

多自然川づくりアドバイザー制度を用いて、平成20年8月末までに岡崎地区で整備を実施している。河川整備計画策定のための流域委員会などで、学識経験者の先生方に参加していただきながら策定していることに加え、地域住民の方々の意向については、アンケートで聴取している。アンケートについては、回収率が必ずしも高くないのでこのような場を活かしてみなさんに周知したい。(県)

・広田川については、整備までの変遷をずっと見ている。いいものが出来るとよい。(高橋)

・矢作川下流圏域の河川整備計画によれば、大幅な改修が行われているようだが、東海豪雨などで被害が多かった地区はどのような整備方針か、資料など有れば提供いただきたい。あわせて、現地見学会などを催してもらえれば参加したい。また、流域圏懇談会を活用して、工事の段階など説明して欲しい。(小澤)

・関連して地域住民との連携について教えて頂きたい。(光岡)

整備にあたっては、協議会のようなものをつくって検討する以外に、個別に意見を聴取することがある。広く流域全体に対して、どのように意見を聴取するのが最適か必ずしも明確でなかったこともこれまでの経緯の中である。今後はこのような点を省みて懇談会へも協力をお願いしたい。(県)

・整備方針や計画等は、変更など出来るのか。(光岡)

国交省では3年に一度再評価をする仕組みがある。見直しをしたうえで変更をすることも視野に入れて整備に取り組んでいる。(新高)

・洪水など、設定された流量を上回るものもある、洪水時に逃げる、非難するという視点も地域と一体となって考えていけるとよい。(小澤)

以上

【振り返りシートまとめ】

■よかったと思うこと

- ・話が聞くことができて良かったです。
- ・河川整備計画の全体像をはじめて知りえた。法律用語、役所用語の羅列の中で、市民が実像をつかむのは、なかなか困難だと知りつつ、その解説の難業に挑戦しなければと悟った。
- ・矢作川と寄り添って生きていくために、どんなことが必要であるのかとても勉強になります。もっと一般市民も参加できるといいですね。
- ・意見がたくさん出た。
- ・計画設定がされている事の説明が今までの説明会が多かったです。今日は、細かい部分の説明もあり納得できました。実施にあたっては、地元住民、その場に詳しい団体、学者の方々の意見を充分に取り入れて、行っていただけるかなと？展望も少しは見えてきた感じがします。
- ・河川整備計画そのものの理解ができていなかったのも、その一部を知ることができ感謝します。膨大な資料をいただきました。勉強させていただきます。
- ・国・県の整備計画について、直接担当の方の説明が受けられた。
- ・整備計画の内容が分かった点。
- ・具体的な説明で分かりやすかった。
- ・勉強になりました。
- ・色々な意見が出された。
- ・時々Q&Aが行われた。
- ・県河川の計画、知らなかったことが具体的に聞けて良かった。
- ・全く知らないことばかりでした。
- ・県の意識（認識）とのすり合わせができたのではないかな。
- ・情報交換、行政が身近に感じる努力。
- ・県が入って身近な河川についての話題が入ってよかった。
- ・連携の課題が見えて良かった。
- ・活発な議論になったこと。
- ・愛知県の方にも懇談会の取り組みが認識されたことにより、今後の河川整備への反映が期待されると思います。
- ・色々な河川整備計画があることが分かり、大変参考になった。
- ・直接色々な意見を聞けて良かった。
- ・自然保護に関するが多かった。
- ・長野県内には、この様な懇談会がないため、今回、様々な意見が聞くことができ大変勉強になりました。
- ・比較的意見のいいやすい場となっていてよい（雰囲気がいい）。忌憚のない意見が出やすい。

■よくなかったと思うこと

- ・時間が短かったと思います。
- ・国土交通省にとっても、県にとっても、私たち市民がこのような機会がはじめてだったように、はじめての経験だったのかもしれない。国や県の河川整備計画を理解し、市民とともに計画を推進しようという意欲や姿勢は感じなかった。お役所の「説明」に終始した印象がぬぐえない。流域住民が主人公の河川整備が実現するのは、いつの日か。市民にとって川は遠い存在になっている。
- ・資料が見にくい。
- ・資料をもっと大きくして下さい。×2
- ・具体的な事例紹介が少なかった。
- ・やはり時間が少ないようです。
- ・基本方針の部分がもう少し聞きたかった。
- ・時間が少なかった。資料を事前に配布して、発表より質問を重視して欲しい。
- ・少し声が小さく（特に県）内容がよかっただけに残念でした。
- ・資料の字が小さいこと。
- ・資料が細かく、字が読み取るのに難しかった。
- ・カラーでなくても良いのが多かった。
- ・第1回目だから全般的な話で、具体の部分が見えにくかった。
- ・最後に全く全体的な討論・意見交換などの機会がなかったので、尻切れトンボのような感じがした。
- ・資料が字が小さい！！まだまだ行政的な資料です。
- ・多岐に渡る計画で各々の計画が少ししか紹介されなかった。テーマを持って、より深い議論ができれば良かったかも。
- ・スクリーンが見にくかった。フォーカスが合っていない？
- ・行政批判のような形となったことが残念でした。
- ・市民の意見を直接聞く場が不明。
- ・工事前に市民の意見を聞く必要をあまり感じてない。
- ・時間配分をもう少し工夫して欲しい（いつも最後、駆け足になってしまう）
- ・少し専門的すぎる内容の部分がある気がする（住民は理解できているのか？）

■これからの進め方への提案

- ・県も参加して欲しい。
- ・何回も何回も勉強会を重ねることが、国・県と市民の距離を縮めることになると思う。
- ・よい伝統を作りたい。
- ・実際の現地見学をして、もっと意見を取り上げて欲しいと思います。

- ・県の参加をよろしく申し上げます。
- ・この様に、国・県の人達、市民の人が集う会がこれからの動きをスムーズにするので、ぜひ機会をつくって下さい。
- ・続けて下さい。
- ・具体のテーマで現地を見たり、計画を示してもらい意見交換できれば好ましい。
- ・県に引き続き密な関与をお願いしたい。
- ・マイクを使ってもらえるとありがたい（大変聞き取りづらい人がたまにいる）。

■質問など

- ・地域の河川のことは、近くに住む流域住民が一番よく知っているという認識が、国にも県にも欠けている。
- ・時間不足？
- ・司会を楽しませて頂きました。もし不快感をお与えしたとすれば、私の不徳です。お詫びします。
- ・色々な意見が出たことは良かったです。
- ・整備計画がついた時、意見を言う機会をお願い。
- ・県にはぜひ市民の意見を聞く場を設けて頂きたい。

以上